

# コロナと災害に備えよう



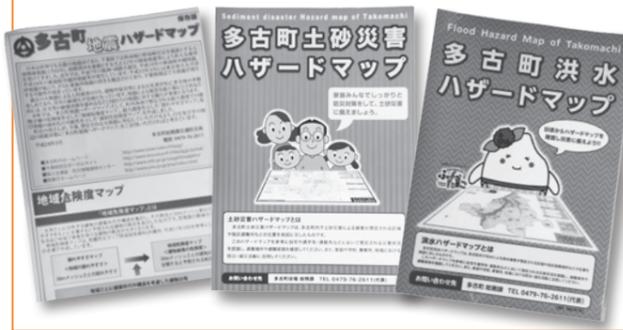
日ごろから災害とコロナに備えることで、いざというときにすぐ行動できるようにしましょう。

## ポイント①避難所や危険箇所の確認

自宅からの適切な避難所や周辺の危険箇所についてハザードマップなどで確認しましょう。

多古町で作成しているハザードマップは次のとおりです。

- 洪水ハザードマップ…浸水想定区域などを記載
- 土砂災害ハザードマップ…土砂災害警戒区域などを記載
- 地震ハザードマップ…揺れやすい箇所などを記載

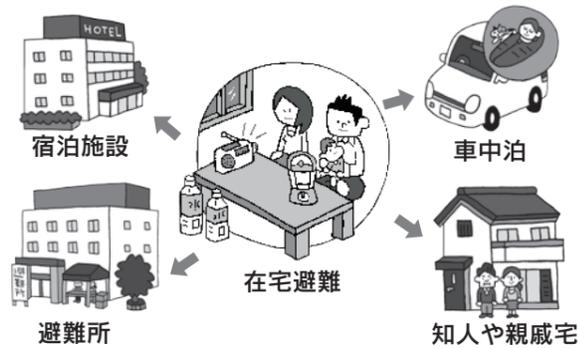


## ポイント②分散避難

密集を避けるためにも自宅での在宅避難や親戚・知人宅、車中泊など分散して避難するようにしましょう。

自宅などでの安全が確保されていない場合には迷わずに避難してください。

コロナを気にして避難が遅れないようにしましょう。



## ポイント③非常用持出品の確認

避難した際には衛生用品などを用意することが難しくなります。

また、通常避難の物品とは別に、感染対策物品も用意しましょう。

下のチェックリストを参考にしてください。



### ☑避難所への持参品(通常)

- 食料 飲料水 薬類
- ビニール袋 ティッシュ
- 携帯のポータブル充電器
- ライト、懐中電灯など

### ☑感染症拡大防止のための持参品

- マスク 消毒液
- 体温計 除菌シート
- 清潔品(タオル、歯ブラシなど)



## ポイント④警戒レベル4までに危険な場所からは必ず避難

避難のタイミングは「警戒レベル」で表示されます。

- 高 警戒レベル5…すでに災害発生(市区町村発令)
- ↑ 警戒レベル4…危険な場所から**全員避難**(市区町村発令)
- ↓ 警戒レベル3…高齢者などは危険な場所から避難(市区町村発令)
- 低 警戒レベル2…避難行動の確認(気象庁が発表)
- 警戒レベル1…心構えを高める(気象庁が発表)



# コロナと災害

## 変わりゆく災害対策

令和元年の台風15号、19号では、多古町に限らず千葉県各地で大きな被害を受けたことは、まだ記憶に新しいと思います。そして、翌年には新型コロナウイルスが流行し、未だに収束していません。災害時には、感染症にも十分に注意する必要があります。現在、コロナワクチンの接種が進んでいますが、油断してはいけません。災害、感染症から身を守るために、日ごろから準備をしておくことが必要です。自分と自分の大切な人を守るため、正しい行動を取れるようにしましょう。今回は、台風シーズンを迎えるにあたり、令和元年台風の際にボランティアセンターの立ち上げ、運営に携わった渡邊信子さんにお話を伺いました。

## それぞれができることを

### 令和元年台風の経験

当時、私はボランティアの方が使う案内図の作成、案内などが主な業務でした。土地勘のないボランティアの方々が、無事現場までたどり着けるようにサポートする仕事です。依頼される内容もさまざまで、内容によってはボランティアで請け負うことができず、お断りしなければならぬ思いをしたことを覚えています。そういった中で自分たちにできることを精一杯やりました。コロナ前の災害から変わったと感じる点



多古町防災ボランティア 副代表 渡邊 信子さん

町民の皆さんに意識してもらいたいこと  
まずは「非常用持出品を普段から目のつくところに用意しておくこと」が大切です。災害に急に巻き込まれた際に、迅速に行動できるよう普段から備えておきましょう。持出品にはマスク、消毒液、タオルなどを用意し、「衛生対策をしっかりとすること」も必要です。また、「避難先での生活を考えておくこと」も大事です。避難したら終わりではなく、避難先での生活が待っています。避難所では当然、他の避難者がいます。性別や、生活様式も異なる方々が一堂に会するのですから、必ず摩擦が生まれます。避難所の運営は町ではなく町民の皆さんが行うことになり、性別の違いや生活様式に対する配慮を皆さんそれぞれが考えておく必要があると思います。これからは自助、共助、公助だけでなく、より近い距離で助け合う「近助」が重要になってくる時代です。災害が起こったときに隣の人に声をかけるなど、小さなことから構いません。それぞれができることを積み上げていきましょう。防災ボランティアに興味のある方はぜひ、一緒に活動しましょう。多古町防災ボランティアについては社会福祉協議会(76-5940)までご連絡ください。